

外来医師一覧表

		月	火	水	木	金
外科	午前	田辺 大朗		田辺 大朗	甲斐 幹男	
整形外科	午前	西口 雅彦	西口 雅彦		西口 雅彦	
	午後		西口 雅彦			
脳神経外科	午前		熊本大学病院医師 黒田(第1週)竹崎(第2週) 賀末(第3週)植川(第4週)	藤岡 正導		藤岡 正導
	午後			藤岡 正導		
心臓血管外科	午後	済生会熊本病院医師				
循環器内科	午前	庄野 弘幸	庄野 弘幸		庄野 弘幸	
	午後	庄野 弘幸	庄野 弘幸		庄野 弘幸	
呼吸器内科	午前	済生会熊本病院医師 仁田脇(第2週)川村(第4週)				
消化器内科	午前		藤本 貴久	築村 哲人	築村 哲人	藤本 貴久
	午後				築村 哲人	
肝臓外来	午前			熊本大学病院医師 瀬戸山		
泌尿器科	午前			済生会熊本病院医師 三上(第2、4週)	済生会熊本病院医師 占部(第1、3週)	
腎臓内科	午前					町田 健治
	午後			町田 健治		
糖尿病外来	午前					済生会熊本病院医師 星乃(第2週)、松尾(第3週)
乳腺外来	午前	田辺 大朗		田辺 大朗	甲斐 幹男	
ペインクリニック	午後					非常勤医師 荒川(第2、4週)
禁煙外来	午後					藤岡 正導
脳ドック	午後			藤岡 正導		

- 受付時間／8:30～11:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)
- 診療案内／TEL.0964-53-1656 FAX.0964-53-1657
- ※お電話での予約や予約変更は平日14:00～17:00に承っております。
- ※休診日がございますので、事前にお問い合わせください。
- ※再診や紹介状をお持ちの方は事前のご予約をおすすめします。

お知らせ

ホームページに最新の休診情報を掲載していますので、ご覧ください。

患者さんの権利と義務

私達は、安心して診療・治療を受けて頂くために、病状や治療法などについて十分な説明を行います。また患者さんのご負担を軽減し、同意に基づいた医療を提供します。

患者さんの権利

- 1.良質な医療を公平に受ける権利
- 2.診療の内容等について十分な説明を受ける権利
- 3.治療方法など自分の意志で決定する権利
- 4.個人の秘密や医療上の情報が保護される権利
- 5.診療記録の開示を求める権利
- 6.あなたの病気について他の医師に意見を求める権利

患者さんの義務

- 1.自分の健康状態を出来るだけ正確に伝える義務
- 2.わからない事柄について質問する義務
- 3.病院の規則と指示を守り治療に専念する義務
- 4.他の来院者に対して迷惑をかけない義務

理念と基本方針

医療・福祉を通じて安心して生活できる地域づくりに貢献します。
「地域医療を支援します」「救急医療を実践します」「健康的な生活を支援します」



社会福祉法人
恩賜財団 済生会みすみ病院

〒869-3205 熊本県宇城市三角町波多775-1
TEL.0964-53-1611(代表) FAX.0964-53-1618

お知らせ・休診情報はこちら
<https://sk-misumi.jp>



発行／令和5年2月 社会福祉法人恩賜財団済生会みすみ病院 広報委員会

咲かせよう いのち 世代を越えて いつまでも。



SAISEIKAI MISUMI HOSPITAL

61 Take Free.
2023.2



医師年頭挨拶

災害訓練

20周年記念特集

〔特集〕20周年記念企画 家族写真コンテスト

みすみ病院のできごと / 部署紹介〔検査室〕

外来医師一覧



社会福祉法人
恩賜財団 済生会みすみ病院

健康と福祉の情報誌／発行者 庄野 弘幸

院長年頭挨拶と 退職医師挨拶



院長
庄野 弘幸

「コロナに負けずに健康な一年にしましょう」

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスとの戦いは4年目になりますね。2022年には、第6、7、8波と感染が大きく広がりました。三角・上天草でもその猛威は変わらず、多くの住民の感染がありました。ワクチン接種は多くの住民が受けておられますが、2023年になってもまだまだ感染は続きそうです。

ワクチンを接種していても、1度感染した方も、油断はできません。日常的に感染に対する注意が必要だと思います。インフルエンザの流行も懸念されていますが、感染対策はコロナと変わりはありません。必要な場面でのきっちりしたマスク着用と頻回の手洗い、消毒を心がけましょう。

昨年お願いしましたが、みなさん、体を動かす機会が減少しているようです。3年間、体を動かす機会が減ったことで、体力低下が目立つ人が増えています。

最近、足腰の衰えとともに、転倒して骨折したり、動こうとしてもきついと訴えたりしている方も増えているようです。それぞれの地域で、体操教室などが再開されているようですので、是非、そのような機会を積極的に利用して下さい。さらに近くを散歩したり、畑仕事をしたり、魚釣りをして下さい。外で体を動かすときにはマスクは外してもいいことになっていますよ。

屋内で会話をするときには、まだマスクは必要ですが、マスクをしていても笑顔を忘れないことが大事です。笑うことで感染に対する抵抗力もアップします。体力を維持して、笑顔のある元気な生活を過ごして下さい。食事もしっかりとって下さいね。

今年も、元気な一年にしましょう。よろしくお願いします。



麻酔科
尾方 信也

今年の干支は癸卯（みずのとう）で恵みの水が大地を潤し、植物の種が形を現して、草木がいいきと蘇り成長と飛躍が期待される年と言われております。ちなみに前回は戦後復興と言われた1964年東京オリンピックの前年でした。

コロナウイルスも三年余り、次々と形を変えて感染対策（換気・マスク・三密防止・手指衛生・ワクチン接種等）に抵抗して猛威を振るっております。

高齢社会に伴う医療費増大に対して、国は予防医療を強く勧めております。健康寿命延長が目標の様です。予防医療の三段階として、一次予防は栄養・運動・休養等の生活習慣と予防接種と事故防止、二次予防は健診・検診による早期発見、三次予防としてはリハビリテーション等による身体機能低下や病気の再発予防等があります。

健康寿命延長には認知症・脳卒中・骨折と転倒・関節疾患等が大きく関連しており、日頃からの運動習慣・食習慣・禁煙・睡眠・ストレス解消（趣味）・歯の健康・定期健診等が大事と言われております。今日から、これらの事柄に気を配って病気を少なくとも未病の状態ですべて予防したいものです。

今年もよろしくどうぞお願いいたします。

また、10年余り麻酔でお世話になりました。手術室で2～3回お世話した方もいらっしゃいました。本当にお世話になりました。

追記：健康寿命とは日常生活が何ら支障なく制限なく送れる状態（最近の平均寿命と健康寿命の差は男9年・女12年）。

早いもので済生会みすみ病院も開設20年の節目を超え、新たに21年目の始まりとなります。20数年前に、政府の国立病院改革にて国立三角病院の廃院が決まり、この地域は医療過疎の危機に晒されました。このピンチを救うべく2003年3月1日に済生会みすみ病院が開院されました。済生会熊本病院から来ました私達は地域の皆さんが安心して住めるまち創りに貢献する、をスローガンに当初は90余名のスタッフで、やる気満々の気概を持ってスタートしました。しかし、皆さんの新みすみ病院への期待とその認識度は希薄で旧三角病院の延長といった程度のもので、その違いを分かってもらうまでには多くの困難と時間を必要としました。済生会熊本病院で培った済生会ブランドは、所変われば品変わるで、通用しないという事を厭というほど知らされました。外来患者さんはパラパラ、病室はガラガラ、患者さんの新病院への思いは全く旧三角病院と何ら変わりがありませんでした。貧すれば鈍する、いくら情熱に燃えても赤字経営では良い医療は出来ません。悶々とした時間が2～3年続きました。病院経営がかろうじてトントンまでに漕ぎ着けたのは4年目からでした。どこからも補助金の支援は一切なく、今思えばここまで良く頑張ったなと、改めてスタッフに感謝した当時を思い出します。その後の済生会みすみ病院の進化成長は皆さんご存じの如く目を見張るもので、二代目藤岡名誉院長、三代目庄野現院長のアグレッシブな診療方針によって自他共に認める地域の中核病院となりました。手前味噌ではありますが1次、2次救急を担っている当院は何かあれば差し当たってはみすみ病院と、大変頼りにされている事と思います。

20年の時の流れは病院自体とその周辺環境に様々な変化をもたらしています。現在の済生会みすみ病院は昭和58年（1983年）に戸馳結核療養所が移転して建築された国立三角病院を改修したもので築40年になり、老朽化のため色々な不具合が生じてきています。開設以来の先生方も一同に20才の年を重ねられました。しかし、若い医師は一人も来てくれません。60才を超えた今もお当直、夜間救急を担当せざるを得なく頑張っております。医師の働き方改革はありがたい事ではありますが、当直医師の翌日の勤務が制限されますので、地方病院の医師不足は益々助長されます。看護師はじめコメディカルも同様に若い人はなかなか来てくれません。建物のみならず病院スタッフも一同に老朽化が進んで来ているのです。みすみ病院の主な診療圏の三角町、大矢野町の状況も大変様変わりしました。三角町の人口は18年間で10,069人から6,752人へと33%の減少、高齢化率46.9%、大矢野町の人口は17,653人から13,203人へと25%の減少、高齢化率は40.6%と地域の老朽化も急速に進んでいます。この現況の中で、健全な運営のもとで、地域の皆さんが安心して住めるまち創りに貢献する病院、であるためのベストの医療体制は如何にあるべきかは、みすみ病院だけで解決出来る問題ではなく、行政そして地域の皆さんと共に考えなければならない時に来ているのではないかと思います。私自身は傘寿を迎え後ろ髪引かれつつも、20年間の済生会みすみ病院勤務を引退いたします。今後もみすみ病院が皆さんの為の病院として存続出来ることを心より祈念申し上げます。



名誉院長
瀬井 圭起





20周年記念特集

20TH ANNIVERSARY FEATURE

はじめに

済生会みすみ病院は国立病院の統廃合により、2003年3月1日国立療養所三角病院の経営を引き継ぐ形で誕生しました。開院当初の許可病床数は120床、職員数は88名でした。その後、MRIなどの機器導入を行い、許可病床数を140床へ増床。その後、回復期リハビリテーション病棟の開設、居宅介護支援事業所、通所リハビリテーションなど地域のニーズに合わせた組織づくりを行い、紆余曲折を経ながら着実に歩みを進めてきました。

おかげさまで当院は2023年3月に20周年を迎えます。今回は開院から20年のできごとを振り返ってみたいと思います。



	2003年開設時	2023年1月現在
許可病床数	120床	128床(2022.9～28床休床中)
標榜科	内科、外科、循環器科、消化器科、泌尿器科、神経内科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科 (計9科)	内科、外科、循環器内科、消化器内科、泌尿器科、脳神経内科、脳神経外科、整形外科、麻酔科、リハビリテーション科、腎臓内科、心臓血管外科、呼吸器内科、糖尿病内科 (計14科)
職員数	88名(委託職員28名)	248名(委託職員31名)

歴代院長

初代院長
瀬井 圭起
名誉院長



就任期間：2003/3/1～2009/8/31

2代目院長
藤岡 正導
名誉院長



就任期間：2009/9/1～2017/3/31

3代目院長
庄野 弘幸
院長



就任期間：2017/4/1～現在

20年のできごと

2004	MRI・骨塩定量装置導入、回復期リハビリテーション病棟40床開設	
2005	マンモグラフィ導入	市町村合併により住所が宇城市へ
2009	オーダリングシステム・電子カルテシステム稼働	
2010	リハビリ庭園改修、健康フェスタ開始	
2011	健診センター開設	
2013	居宅介護支援センターみすみ開設	
2015	健康フェスタ来場者数が1,000人突破	三角西港が世界遺産に
2016	通所リハビリテーションセンターコンパス開設	熊本地震発生
2018	訪問診療開始	
2020	松合巡回診療開始	新型コロナウイルス感染症国内初確認

ホームページが新しくなりました。

何科を受診すればよいのか、わからないことはありませんか？

主な症状から、みすみ病院ではどの診療科を受診すればよいのかがわかるページを設けました。健診後の精密検査なども内容によって診療科が異なりますので、ぜひ参考になさってください。

テーマは

みんなの
すまいるを
みらいへ



症状から診療科を探す

痛みがあるとき

- 頭が痛い 脳神経外科
- 背中が痛い 整形外科
- 手足、関節が痛い 整形外科
- 膝が痛い 整形外科
- 肩・首が痛い 整形外科、脳神経外科
- お腹が痛い 消化器内科
- 胸が痛い 循環器内科

痛み以外の症状

- 血圧が高い 循環器内科、脳神経外科
- 肩や手足のむくみ 循環器内科
- 動悸・胸の乱れ 循環器内科
- 息苦しい 呼吸器内科
- 咳やたんがでる 呼吸器内科
- 胸やけ、吐き気 消化器内科
- おしっこが近い、おしっこがでない 泌尿器科
- 手足のしびれ、麻痺 脳神経外科、整形外科
- 歩行時にふらつく、めまいがする 脳神経外科

健康診断や人間ドックの結果によるもの

- 血圧が高い 脳神経外科、循環器内科
- 血糖値が高い 腎臓内科
- コレステロール、脂質異常症、高脂血症、中性脂肪 消化器内科
- 肝機能 消化器内科
- 貧血、血小板 消化器内科
- 血尿、PSA 泌尿器科
- 尿蛋白、尿潜血 腎臓内科
- 大腸検診、便潜血 消化器内科
- 胃検診、ピロリ菌 消化器内科
- 腹部超音波検診（胆石） 外科
- 腹部超音波検診（腎臓、腎機能） 腎臓内科
- 腹部超音波検診（胆のうポリープ） 消化器内科



済生会みすみ病院 20周年記念企画
家族写真コンテスト



当院は2003年3月に開院し、おかげさまで2023年3月に20周年を迎えます。
そこで地域の皆様にご参加いただき、より当院を身近に感じていただけるよう家族写真コンテストを開催することにいたしました。
入賞作品は当院のホームページや広報誌へ掲載予定です。詳細は下記のとおりです。たくさんのご応募お待ちしております！

	募集要項
テーマ	『家族写真』（サブテーマ：地域の風景・三世代・笑顔など）
賞および 賞品	☆金賞 1点（賞品：お菓子詰め合わせ 大） ★銀賞 2点（賞品：お菓子詰め合わせ 小） ※どちらも当院ホームページのTOPページへ一定期間掲載、その後サイト内のスマイルギャラリーへ保存いたします。また、広報誌「さいせい」への掲載や院内掲示などに利用させていただきます。
発表	院内で選考後、入賞者の方へご連絡いたします。 また、ホームページ等で発表いたします。
応募規定	● 横向きで撮影されたもの ● JPEG形式（1,000万画素以上推奨） ※画像使用時にトリミング等の加工をさせていただく場合がございます。
応募方法	① メールでのご送付 氏名（ふりがな）、住所、電話番号、メールアドレス、作品のタイトルを記載の上、下記メールアドレスへ写真データをお送りください。（15MB以内） ● koho-misumi@saiseikaikumamoto.jp ② CD・DVD等のご郵送またはご持参 氏名（ふりがな）、住所、電話番号、メールアドレス、作品のタイトルを同封の上、下記住所へ写真データを郵送またはご持参ください。 ● 〒869-3205 熊本県宇城市三角町波多775-1 済生会みすみ病院 家族写真コンテスト係 ※お送りいただきましたデータ、CD・DVD等とはご返却いたしませんのでご了承ください。
応募締切	2023年2月24日（金）
注意事項	ご提供いただいた個人情報は厳重に管理し、当コンテストに関連する業務にのみ使用いたします。 1. 入賞作品は当院が無期限・無償で自由に利用することをご了承ください。 2. 応募作品が規定に満たない場合は、選考から除外する場合がございます。 3. 応募作品は応募者に全ての著作権があるものかつ未発表のものに限ります。 4. 応募作品において肖像権や著作権の侵害等があった場合、応募者が解決するものとし、当院では一切責任を負いません。 5. 応募により生じた損害等につきまして、当院は一切責任を負いません。 6. 18歳未満の方が応募された場合は、保護者の同意を得たものとみなします。

みすみ病院の
できごと

SAISEIKAI MISUMI HOSPITAL

災害訓練を実施しました



12月15日に新型コロナウイルス感染症流行のため昨年、一昨年と中止していた災害訓練を実施しました。

災害状況の設定を、平日夜間に熊本県宇城市を震源とする震度6弱の地震発生とJR三角線での脱線事故発生の2パターン準備し、メンバーを入れ替えて2度行いました。

各部署から参加したスタッフは当直・待機者、連絡を受けた参集者、また訓練の記録係や評価者として役割分担を行い、災害発生から診療に至るまでの一連の流れを実践しながら確認しました。

訓練後には人員配置の見直し、トリアージタグの取り扱い方の統一、本部運営、備品不足など様々な問題点を洗い出すことができました。明確になった課題の改善や備品の補充を行った上で、今後も定期的な訓練を実施する予定です。

防災管理委員会

部署紹介★

検査室



一部屋少人数ならではの協力体制で、
日々の業務を行っています。

どんな部署ですか？

検査室の業務は、大きく検体検査と生理検査の2つに分かれ、現在8名の職員が業務を行っています。両部門はワンフロアの一部屋で仕切りも無いため、お互いの業務の状況がすぐに把握共有できます。そのため「〇〇さんの採血結果良くないけど、エコーはどんな感じ?」や「ちょっと忙しいから〇〇手伝って下さい」など一部屋少人数ならではの協力体制で、日々の業務を行っています。また、外来や診察室も近く、緊急検査や検体採取なども、フットワーク良く対応しています。

ここだけの話を教えてください。

ここだけの話ではありませんが、10数年使用してきたユニホームを「白のケーシー」から「スクラブタイプ」へと変更しました。診療支援部(検査・画像・薬局・栄養)の中でも、検査室はワインカラーで(他はターコイズ×ネイビー)、個人的には渋くてとてもお気に入りです。

ホットな話題、PRやメッセージをお願いします。

血球分析装置と凝固測定装置は、14年越えの年代物のため故障も多く、臨床の現場に迷惑をかけることも多々ありました。しかし6月中旬に新機種が導入され、検体処理能力の向上や体液などの検査も可能となりました。

また、男性のスタッフが、7月から2ヵ月弱の「育休」を取得しました。このような風潮が組織全体へ拡がることを期待します。

